

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホームあざみの家

ユニット名 2階

自己評価実施年月日 平成 20 年 5 月 20 日

記録者氏名 武村 園

記録年月日 平成 20 年 5 月 25 日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	「誰もが来やすい家」「ちんがり寄ってくれる家」「どうしゆうろうかと思うて」「元気かよ」「おばあさんどう」「しばらくこれんかったき」言いながら来てくれる家。個々の家族が入居者皆の家族になっている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	何度も繰り返し皆にわかってもらい、「自分だったらこういうことはされたくない」「こういう話をしてもらいたい」「こう言うてもらいたい」という気持ちをもってほしい。生活の中では、いろんなことがあり、拒否もあったりする。職員同士の連携をもって代わり合いながら、入居者も職員もいい状態で時間が持てるように。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	問い合わせや見学の際、話をさせてもらっている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の方は、よく知ってくれている。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	閉じこもりにならないように、買い物・散歩・みかん狩り・花見などに出掛ける事で、ドラマがある。(人混みは、動きがあるので、体で感じる事ができる)近所の子供たちが遊びに来てくれてとても喜んでいた。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	職員も声がかけている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	改めて初心になり、見直しの機会になると思っている。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	運営推進会議にて現状を見てもらって、報告したりする中で、改めてサービスの見直しになり、前向きに進んでいける。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	運営推進会議を通してつながりは十分にある。又さわやか高知のボランティアの会に参加させてもらって、包括・他の事業所・地域の方などたくさんの情報・現状の実態を聞くことで、「自分たちにできることは・・・。」と問いかける事がたくさんある。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	後見人制度の話は、ほとんど家族からは聞かれないが、職員として理解はしておかないといけない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については、話し合いに出てくる機会が多分にあり、「してはいけないこと」「見て見ないふりをしないこと・同罪であること」を職員皆に徹底している。	○	虐待の意味を知り、絶対にしてはいけないことの認識を持つように徹底。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新契約・契約更新の際は、事業所からの意向を十分に理解いただき、家族の意見を聞き話し合いをしている。（協力をしていただくことも含めて）解約にいたっては、次への行き場所への不安の無いように、納得行くまで関わり、状態がどうかの様子も伺いながら、次での生活が落ち着いていけるように顔を出している。	○	家族が納得いくように、重要事項の説明をして、契約に至っている。その中で疑問・こんな時は・・・など具体的に話はしている。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の苦情・家族会での意見など受け入れをしているが、事業所の方向性も理解してもらいながら、解決できるように、又前向きに両者が納得できるようにしている。すぐさま対応できないこともあって、家族に迷惑をかけたこともあった。	○	話を受け止めた上で、家族の意向に添えるように職員間で話し合い解決している。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月中旬に利用料の請求書・領収書・お小遣いの通帳残高・入居者の状態報告・機関紙・処方箋を郵送している。お小遣い通帳からの出費した領収書は、一年間預かり12月末に家族に返却している。その都度の家族会・面会時にて、職員の異動・退職の報告をしている。	○	家族さんには、情報を共有している。定期的に郵便にて連絡している。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時・家族会で家族さんからの不満、苦情、意見を聞いている。すぐに解決できることは対応している。すぐさま解決できないこともあるが、反映はしている。意見箱の設置はしている。	○	直接家族さんから話があったりする。職員には、話をして改善して解決の方向へ。家族会などで報告している。又全体では言えないこともあるので、個々に話をもっていっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階ホーム会・全体会を持つことで、職員の意見を聞いている。その場で解決できることは、対応しているが、上の意見を必要の場合は確認をとる。	○	職員皆が働く職場・グループホームである。働きやすい環境に、改善しながら声にだして、動いている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来るだけの勤務体制をしている。	○	前もってわかっている状態への対応・随時調整をとりながら勤務のやりくりをしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	あざみの家内での異動をしている。もちろん利用者さんへのダメージの無いように出来るだけ最小限におさえているが、あざみの家全体で一つであり、1階も2階も柔軟に関わりが出来るようにという気持ちで20年1月より実施している。職員の異動においては悩みに悩んだ末であり、突然の休みや長期休暇もあるので出来るだけ、利用者さんに顔を知ってもらい関わりが持てて、安心できる気持ちをと。	○	異動することで入居者さんには、不安な状況をつくったが、職員側も入居者への関わりが広がり、皆に関わりができ、状態がわかった上での声幅広くかけられるようになった。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修・グループホームでの話し合い（ホーム会、全体会）で勉強している。研修を受けた職員から報告を受けて、現場に生かせるように。	○	個々に質の向上に向けて、研修が受けられるように調整をしている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通して情報の交換をしている。又友達のグループホームの見学をしてサービスの向上にいいと思うことを取り入れていれ検討・参考になっている。	○	同業者と話をしながら、色んな情報を入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何が苦になっているかちょっとしたことの話し合いをもったり、個人面接の中で聞いたりして、長く継続できる職場の環境をと話をしている。	○	話をしながら、「何がしんどいか」「問題点は」などを解決しながら、職員が長く努めることができるようにしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者より職員の個々の情報は耳に入れている。その結果、どのようにしていくかのアドバイスをもらっている。人事考課実施。	○	職員皆に役割分担することで、責任をもって役割を果たすこと、研修や緊張する体験することで自分の質の向上に向けて「やっぺいこう」というチャンスを入れながら、又個々の面接をしながら、職員一人一人の気持ちの持ち上げをしながら仕事できる環境をつくっている。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一番は家族、次に本人さんと何気ない話をしてい中で情報を取り込んでいる。他の方を巻き込みながら話をふくらませている。又「困っていること」「不安なこと」「どうしてほしい」など、どういことを思っているかの、人物像を作り上げていく。	○	本人を受け止める。話を聞き「どうしたいか」「不安なこと」「困っていること」など納得するまで関わることから、「安心」できる関わりへ。本人の気持ちを大事にしながら。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	話が出やすいように、こちらから一方的に質問攻めにならないように留意し、これまでのいきさつを聞きながら、「今後の希望」「どうしていきたいか」の方向性をもって、話を引き出せるようにもっていく。	○	できるだけ情報の聞き取りをする。家族が「どうしてもらいたいか」「何をもとめているか」を知る。話をしていくことから、グループホームの実情知ってもらいながら、たくさんの情報の共有をしていく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を見極めた上で、本人と家族が必要としていることも含めて、「今何を」という対応から。	○	家族の意向・本人の現状の見極めをした上で「今何を必要としているか」「不安なこと」などを話の中から聞き取り、一つ一つ確認していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26 ○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスに当たっては、家族さんの理解をしてもらったうえで、本人さんがまず第一で安心できる雰囲気を。本人さんには、説得するのではなくわかりやすく、納得いくように関わりをもって接している。	○	家族さんと話しながら、安心できるサービスであるように、その時の状況を見極めながら、関わり工夫をしていく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人さんの状態を把握しており、一緒に笑ったり、怒ったり、涙流したり、教えてもらったり、一緒に感動したりいい関係が保たれている。又それぞれの状況において他の職員との連携を取りながら、本人さんへの関わり方の引き出しを捜しながら接している。	○	入居者さんも年令を5年重ねて、「わかること」「わからないこと」が開設時からみると変化がある。しかし一緒に笑ったりする感動を共にできる関係が保たれていることは、うれしい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に家族と職員が大きな円を書けるような気持ちで皆で支えている。変わった事があったり、嬉しいことなど家族さんと共有している。	○	家族さんに支えられながら、5年目に入り、入居者の入れ替えもあったが、情報を得ることで入居者さんの事を職員皆で受け止めてきた。一緒に笑ったり、「どうしよう」と悩んだり、「困ったね」などと一緒に取り組んできた。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族さんは、「本人さんと距離を置くことで新鮮に見ることができて、感情的になることなく、話ができるのでよかった」と言われる。どの家族さんにとってもよい関係が築けている。又家の状況を随時報告することで、家族さんも本人さんの現実を共有できる。	○	職員は、本人と家族さんの橋渡しであり、いつも良い関係であって欲しいと思う。できるだけ家族さんも会いに来て欲しいし、本人の状態の共有をしている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活暦を大事にししながら、関係維持に努めている。家族さんの協力していただきながら、家族水入らずの関わりをひと時をつくってもらっている。親戚・友達・勤めていた頃の仲間・教え子が会いにきたり、電話がかかってくる。	○	普段の皆さんが何気なく話していることをしっかり危機ながら、本人から昔の懐かしく話す内容・家族さんからの情報を得ている。連絡することは、している。懐かしそうに話をしている。突然の面会にも大喜び。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係は、波があり、いい雰囲気の時もあれば、「物が無くなった」といった事から「どうしたぞね」とどんどん話が大きくなって、みんなを巻き込み「あの人がとった」と、なってしまう。状況が突然に流れていく時は、対応に慌てるが、話の内容に耳を傾け、雰囲気の状態把握でその場の落ち着きは保たれている。	○	「不安にならないように」「安心できる」ような職員の関わりが大事である。入居者同士の関わり方の把握をしていないと、ちょっとしたことでも不安になり大きな物になっていくので、職員の力量の引き出しが必要になってくる。又入居者さん同士での和やかな雰囲気もあるので大事にしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの終了した本人・家族さんにも今も変わりなく声を掛けさせてもらっている。又家族さんからも声を掛けてもらう。	○	現在も行き来があり、「ご無沙汰してます」「元気ですか」「ここを通りかかったので寄ってみました」と寄ってくれたり、声を掛けたり掛けられたりしている。大事にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族と本人とのカンファレンスや個々との何気なく引っ張ってくる話から気持ちを理解する。	○	何気ない会話の中から、本人の本音を聞き取りながら、職員同士の情報の共有し、求めていることを把握する。
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報はもちろんだが、当初はなかなか家族とも信頼関係がない為、深くその方を知る為には、情報を何気ない会話の中から、又カンファレンスを通して、家族から話を聞いている。その都度皆に情報の共有をしている。特に、職員入れ替え時は、話し合いの中で共有している。	○	個々の情報（生活歴・家族構成・リスク）の共有をしている。何気ない会話の中から自分の物にしていく努力をしながら、本人を取り巻く情報を得ていく。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	早出・日勤・遅出・夜勤のチームワークで入居者一人一人の状態を申し送りしている。今日と明日は全く状態が異なるのでその都度に関わっている。	○	その日の状態で関わりを変更できるように、職員同士の連携をとる。特にリスク面の状態には、声を足していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に一回プランの見直しをしている。日頃の生活・変化の様子に申し送りを通して、皆が共有する事で、急遽話し合いを持ったり、すぐさま対応できるようにしている。	○  評価を中心に、本人の現状を見極めた上でのプランを作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しはもちろんだが、その都度プランがいかさねない状態になれば、話し合いを持てるように、家族・職員とも随時話し合いを持って関わりの変更ができるようにしている。現状に合ったプラン作成をしている。	○  本人の状態とプランとの不一致が見られるときは、話し合いを持ち、職員には現状にあった関わりに、そして家族を含めて話し合いを持ち、応急処置をとったことの評価を併せながら検討していく。(今何を必要とされているか)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わりの中で日頃の様子と違った事、意外な行動、自分からやろうとした事、職員が「あっ」と気づいた事の記録を入れたり、職員同士が共有したりする事で、又関わりながら「～した方が・・・。」という事を話ながら、最終にはプランの見直し・関わり方に生かしている。	○  プランはその方の生活そのものであり、職員の気づきが大事である。サービスを提供していることがどんな状況であるか正しく評価し、プランの見直しにつなげている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日頃の関わりの中で、個々の状態を見極めた上で「もっと距離を伸ばしてみよう」「階段の上り下りはどうやろう。急にやってもいかんが、2・3段からはじめては」「やってみろるか」「声を掛けてみるから」など、職員の気づきから前向きに関わりをしている。	○  あきらめず前向きに取り組んでいる。そのためには個々にあった声がけ・たくさんの引出を持っていかないと、ストレートに関わると、気分が沈むので、現状を見極めながら声を足している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	できるだけ周りからの刺激をと思っている。行事を通して、地元の方の声を聞くととても喜ぶ表情が見られる。「来る」「見る」「話をする」「聞く」事で、又家族をひっくるめて本人を盛り立てている。地元で有名な和太鼓ボランティアさんや地域のボランティアさんたちに関わってもらっている。	○  やっぱり地元の方の声を聞くとすごく喜ぶ。ボランティアの方も喜んでくれる。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	曜日の指定があるので、なかなか他の行事とぶつかったりしていけない状態。外に出ること・他の方と話ができることはとても大事であるので、続けていきたい。	○  入居者さんの状態を見ながら、再度実行していく。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通して、関わりは非常に多くなり、現状において理解して頂いている。	○  運営推進会議を通して、実態を見てもらいながら、意見交換ができるのでありがたい。
43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望、受診の前に家族連絡しながら、受診している。又受診結果は、家族連絡している。家族が病院受診の対応をしてくれる方もいる。	○  家族・主治医との連絡をした上で、家族の意向も聞きながら受診する。
44	○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の往診・訪問看護にも、その都度入居者の状態を連絡し、相談している。随時専門医への受診を進められる事もあった。	○  入居者の状態の報告を定期的に行っている。専門医に受診となれば、家族さんへの連絡・同行などの協力してもらっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護がハートフルクリニックより、一週間に一回訪問に来ている。又随時入居者さん変わった事があれば、すぐさま電話連絡して指示・訪問を受けている。健康管理のチェックをしている。	○	毎週火曜日の訪問であるが、ちょっと普段と違うことがあれば、随時電話連絡をして指示を受けている。又状態によっては、訪問あり。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、できるだけ出向いて本人はもちろん家族さん、看護師さんとの連絡を取りながら、本人の現状の把握に努めながら、本人が気持的に落ち込まないようにしている。情報交換をしている。	○	入院と同時に、面会にについては「どういう状態か」「病棟の看護師さんに声をかけたり」「家族さんからの情報を受けたり」して確認を取っている。本人には、声を掛けながら気持ちの上で穏やかに過ごせるように、退院に向けて「待ってるよ」という気持ちで接している。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	18年4月からの取組みにおいて、法人・事業所において指針・マニュアルなどを作成している。家族会にて医療連携体制について話をしている。	○	細かい具体的な関わりについては、職員皆が徹底する。家族さんにおいても、「今すぐどうのこうの」ではなく、あまり考えたことがない」と言われる。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携体制になり、法人・事業所全体でどのように取り組んでいくか、どのように関わっていくか話し合っている。家族さんにも話をしている。	○	家族は、今の現状から見極めることができないが、事業所に求める気持ちは大きい。どのように関わっていくかの細かい取り決めを職員皆で徹底していく。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居場所が変わる場合、本人・家族への理解を得ると共に、不安に対して少しでも解決できるように、関わる。本人には、少しでも顔を見せて安心できるようにしていく。	○	①本人の情報を共有すること（生活暦を中心に、生活レベルの状況をおくる。又スムーズに受けいれてもらえるようにし、本人に不安の無いようにしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	大事にしている面である。個々の関わりの中で、個人情報の共有と共に触れてはいけない事については、禁句としている。	○  個々の状態が全く違うので、声がけひとつ異なるので、「こういう関わりをしたがやけど、受入があったよ」など職員同士の情報の共有を必要である。又声を掛けながら対応している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「わかること」「わからないこと」「できる事」「できない事」も含めて、職員サイドで決定するのでなく、本人の気持ちで決めてもらえるように、個々にあった関わりをしていく。	○  個々によっても「わかる」ことが違うので、状態を見ながら話しをしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々によって、年齢も体質も好みも全く違うので、もちろん本人さん中心の流れである。「動きたくない」「めんどくさい」があり、状態を見極めながら声を掛けている。「どうする？」と聞いたり、「いくかね」「ほんなら・・・」と腰を上げる事もある。特に動く事については、「しんどい」という事があってか、あの手この手で声を掛けながらやっている。	○  「今どうしたいか」を大事にしていく。本人の訴えを。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族さんの協力してもらいながら、行き付けの美容院にいて散髪している。しかしほとんどの方があざみの里にくる理美容を利用している。	○  家族にしては、金数・時間などをひっくるめた上でお願いしていると思われる。家族の協力がなくて出来ないで、状態をわかってもらった上で協力を求めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>「私にはさせてくれんの」「私がしたらいかんの」と『自分』を全てに表現し全体の雰囲気がかわる事を職員もどうしていいかと。みんなが個々の役割分担ができていて職員が声を掛けながら関わることができたら不安はなく、「私に声をかけてくれた」という気持ちで、気持ちよくできる。性格的に「やりたがり」で全てに・・・常に中心になるような分担が大事。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>個々にあわせながら、納得いくようにしていきたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>その都度状況に応じて対応する。まずは水分をしっかりとれる事から、皆が「何故必要とするのか」を分かった上で始める。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>個々によって、拒否があったりするので、何とか入ってもらえるように、あの手この手で声をかけている。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>その日によって、全く状況が違うので、様子を見ながら対応していく。個々によって年齢や状態が異なるので、皆が一緒に動きは取れない・取ることもない。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	みんなが「やりたい」方ばかりで、中心にならないと不安になる。歌を歌い出すと「わたしも」といった感じでめいめいが歌い出しにぎやかである。散歩したり、洗濯物をたたんだり、干したり、片付けたり、御飯の準備をしたり、ゲームをみんなで楽しんだり、入居者さんたちからの動きができるように声を掛けながらしている。	○  毎日繰り返しやることも楽しみながらで活性化できるようにしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、現金預かりだったが、平成20年3月より預金通帳の預かりとなり、通帳・印鑑預かりで、グループホームで支払代行をしている。ただ買物には、一緒に出かけて、財布から出したり、職員がしたりする。日頃「私のお金は、どこにある？」という質問があり、「預かってますよ」「そうかね」とあっさりと納得される時と、されず「靴や服をかいたいき、出してちょうだい」といわれることがある。	○  出来るだけ自分でお金の支払いができるようにしていく。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の個々にあった散歩・それぞれの買物・買い出しと一緒に出かけている。四季を感じながら、出かけている。	○  ちょっと外の風をうけたり、目先が変わるだけで気分が変わり、表情も落ち着いてくる。出来るだけ外に向けて対応する。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて外出をしている。毎年もうすぐしたら梅干し・らっきょうを市に買いにいった、一緒に漬け込みをする。花見には、家族会でできるだけ声を掛けて、協力を求めている。入居者さんが家族さんと関わりが持てる機会を作るように心がけている。	○  閉じこもり無く、季節を感じながら外出の機会をつくっていききたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙を作ったり、手紙を書いて出したり、家族・知人から電話がかかってきたり、「掛けたい」という気持ちに答えて電話を掛けたりしている。	○  あざみの家に沢山の方が出入りする事で、入居者さんも活性化する。家からも手紙を出して、きてもらって、電話をかけてもらってを繰り返すことから広がっていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日家族さんが洗濯物を取りに来てくれる事で一声掛けたりする事が「安心」という気持ちになり、とってもいい表情でいる。又「いたどりをはがしちゃーお」と思おてちょことよったき・・・。「出かける前に顔をみちよこー」とおもってきたよ。と寄ってくれる。毎週日曜日に来てくれる息子さん。「日曜日に来てくれるね」と待っている方。良く家族さんや知人が来てくれる。	○	家族さんもよく来てくれている。家族会にきてくれることを通して、水入らずの関わりも出来ている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどういう事を言うのかについて、職員皆に徹底している。又その都度声を掛けながら「ちょっとおかしいよ」と話している。	○	「してはいけない」ことの徹底と、職員がどのように関わっていくかの話し合いをしている。(ホーム会)
66 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	晩方の20時になれば、玄関の鍵を閉める。朝は、早出が出勤の7時20分頃に玄関を開ける。	○	鍵をすることは無い。
67 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々のプライバシーに配慮しながら、さりげなく所在確認をしている。又どういう状態であるかの確認をしている。	○	一人でいることも大事であるが、かえって不安にあることがある。声をかけられることで安心し、表情も含め状態を確認しながら対応していく。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々によってどうしても危険なものがある。管理ができない状態であると見極めた場合は、家族にも話をした上で預かる。職員と一緒に付き添った上で食事の下準備の包丁さばきや皮はぎをしてもらったり、針仕事・爪切りなどを行っている。全てを取り上げるとかえって不安になるので、一緒に関わりを持つようにしている。	○	状態の変化は、一番わかる職員がその都度見極めて、対応していくが、職員・家族との共有を大事にし、全てを取り上げるのではなく、何気なく一緒に関わるようにもっていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々のリスクを見極めて、状態をわかった上でプランにもあわせて、職員皆で取り組んでいる。研修に参加し、一人一人が確認していく事と認識している。	○	個々の状態の変化があり、職員同士の伝達をしながらその場の対応をする。「なぜ・どうして・防ぐことができなかったか」の分析をしていく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訪問看護が訪問の際に「こういう時は・・・する」「こういう場合もある」など、いろんな情報を得て、対応できるようにしている。	○	マニュアルや訪問看護との連携ができ、すぐさまの対応が出来るようにする。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年に2回実施している。「いざ」という時の為に対応できるようにしている。(夜間想定・地震対応・火災訓練・消防訓練など)	○	出来るだけ避難訓練に参加してもらい、万一の災害に備える。又非常ベルが鳴ると、何かがあるという気持ちになるように、日頃から話をする。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族には、カンファレンスを通して、又随時・来所時に生活の様子を話して共有している。	○	出来るだけ家族さんに参加していただけるように連絡をしている。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日朝夕にバイタルチェックをしている。顔色・表情・動き・体感・水分量・排便・排尿の状態を気にしながら、状態を見ている。「ちょっとおかしい」と普段と違う状態がみられたら、すぐさま訪問看護・ホーム長に連絡し次の指示を受けて対応している。	○	普段の状態が把握できているので、ちょっとした変化に「おかしいな」と職員同士が声に出し、「訪問看護に連絡してみるから」という動きになるように。又水分は取れているか・便は・食事量・運動は出来ているなどへの確認も併せて。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理については、服薬管理ノートを通して、毎日職員がチェックしている。どういう薬を飲んでいるかについては、処方箋を確認しながら、薬のセットをし、確認している。又往診の際、薬の変わりなしの確認をしている。	○	処方されるときに、薬の変更・増える・減るなどの確認をする。又どういう薬で（名前）、なぜかと言うことの確認。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	起き抜けにお茶や水を、毎朝食事の時に牛乳かんでん・牛乳を出している。又味を変えてかんでんを食べてもらっている。口当たりが良く「つるーん」と口に入るので良い。又水分をこまめにとってもらっていると共に毎朝の体操の励行をしている。	○	①水分摂取（こまめに）②排便（定期的に出ているか・硬くないか）③食事摂取（常食）かんでんゼリー④運動の確認をしていく。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々に合わせて口腔ケアに誘っている。拒否はほとんどなく気持ち良く関わらせてくれる。又口の内側・べろの上も掃除するようにしている。	○	個々に合った声かけをして、必ず食後の口腔ケアにもっていくが、ただ形式的にするのではなく、べろの上・ほっぺたの内側の確認・うがいも合わせて・義歯の取り扱いにも気をつける。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックをし、「どのくらい食べているか」「飲めているか」を確認しながら、個々に補給している。無理時のないように、回数を増やしながら、かんでんゼリーの口当たりの良い物も食べてもらっている。又好きな物を飲んでもらいながら、あの手この手で関わっている。	○	「食べれない」「飲めない」原因の追求をする。水分・便・食事・運動は大事である。まず口から水分がいけるように、かんでんゼリーを提供し、1,500以上を目指す。繊維質がいけば、便もでるし、薬に頼らず、自力で出るように、運動も取り入れながらの生活を目指している。
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	高知市保健所の研修を土台に、感染対策をしている。毎朝の拭き掃除からスタートしている。又感染マニュアルにそって対応している。食べ物・汚染物の扱いの魚国総本社からの研修も毎年行われる。	○	感染の怖さを勉強して、起こさないように皆が気を付けていく。職員も健康管理には気を付けている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間帯には、必ずまな板・ふきん・台拭き・包丁のハイター付けをしている。食材の管理においては、水分が飛ばないように新聞でくるんだり、ビニール袋で蒸せ込まないように出している。又冷蔵庫内の賞味期限切れ、片付けをしている。	○	必ず手洗いの励行し食に関わる。又作りながら片付けながらの両者で作っていくようにする。作り上手・片付け上手をしながら行う。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、開放的であり、鍵はしていない。大きな看板を張り出し、「あざみの家」とわかるようにしている。家族も自由に出入りがあり、「こんばんは」「こんにちは」と気さくに来てもらっている。	○	大きな看板を張り出している。「大きいからすぐわかるね」と声がある。
81 ○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの場所を気にしている。特に台所は、明るく食の場であり、包丁の音、においを直に感じてもらえる。足元が明るく安心できるように、心がけている。又気持ちの上で落ち着く事ができる音楽を流している。（なつかしメロディーなど）	○	心地よく過ごせるように、安心して移動でき、美味しく食べる事が出来るように照明や気持ちの上で落ち着く音（クラシック・歌謡曲・なつかしメロディー）を流している。又DVDから流れる音を聞きながら、画面を見て歌えるようにしている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの入居者さんが思い思いの場所にいて、過ごしている。玄関先・和室上がり口・居間のソファ・ダイニングなど皆がそれぞれに好きなどころにいて、そこで気の合う方が一緒になって話をしている。	○	自分で好きな場所に移動している。「あそこへいく」「ここにおる」。又そこに一人一人よって来て、話がはずみ、時には感情が高ぶって、大きな声を出したりする場面もみられている。自分から好きな場所にいけないので、そういうときを大事にしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族に協力してもらいながら、本人が使っていた 物を中心に落ち着く環境作りに心がけている。	○	家族が中心に本人さんと一緒に居室の片付けをし たり、落ち着いた環境作りの協力を求めている。 衣替えもお願いしている。夜間帯になるとかえって 不安になる物は、職員が管理し、朝もとにもどし ている。
84 ○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温度計を設置して、状況に応じてこまめに寒気を している。又季節に応じて、エアコンや電気カー ペット・加湿器を使っている。外とあまりにも温 度差がないように気を配っている。できるだけ自 然の風を取り入れるようにしている。朝・昼・夕 には空気の入替えの為に窓の開閉をしている。	○	できるだけ自然の風を取り入れているが、どうし ての場合は、エアコンに頼って、できるだけ外と の温度差に基を気をつけている。又一日数回は、 換気をしていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	玄関の上がり待ちに段差がある。居間・トイレ・ 浴室・廊下・階段には手すりが付けられている。 食事の準備には、たったままの状態では、できな いのでダイニングに座って行っている。又できる 方には、ランチョンマットを敷いたり、職員見守 りで洗ったり、炒めたりしてもらっている。廊下 を歩く練習を兼ねて、カーテンを締めに行って もらっている。	○	個々によって、身体機能は異なるので、入居者さ んの状態を正しく見極めた上で、一緒に付き添 い・見守りが出来るように職員皆で徹底してい く。
86 ○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ホーム会で一人一人の人物像について話し合いを 持っている。「わかること」「わからないこと」 をちゃんと見極めて、「わからないこと」を職員 がどのように声を掛けて関わっていくかを話し 合っている。「わかるからできる」ということ でなく、やっぱり関わり一つ、声がけ一つである ので、繰り返し関わる。	○	関わり一つである事は、皆が認識している。他の 職員の動き・関わり・声がけを見ながら、又「私 は、・・している」と、状態を見ながら職員同 士の連携をとり、「どのように関わっていったら良 いか」の声の掛け合いをしている。
87 ○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関先には、ベンチをおいてあり自由に座る事が できる。又ベランダにも行き来ができる。緑や花 を絶やさず、又外回りの花も四季を通して植え替 えながら、楽しんでいる。風に吹かれながら歌を 歌ったり、お茶を飲んだり、散歩の帰り道一休み してる姿もみられる。	○	歩道は、コンクリートをしているので歩きやすく している。ドラムにパラソルの差し込みができ、 日よけにし皆が外に出ても、ゆっくりできるよう に設定できている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

朝の体操を封切りに一日がはじまる。頭から足までの体全体の運動を取り入れ、且つ頭の体操を取り入れながら、おもしろく、楽しい時間を作っている。「これが飲みたい」「歌を歌ったり」「話がでる」という言葉に出せるよう、意識しながら関わっている。水分をできるだけ多くいけるように、寒天ゼリー、好きな飲み物、お茶類などの提供(日中・夜間を通して)。口腔ケアをすることで、燕下にも関係し、意識しながら義歯の取り外しに気を付け、ペロの上、ほっぺたをきれいにしている。「歩くこと」をできるだけ毎日個々にあった距離を歩いている。外に出ることで気持ちもさわやかなる。「カーテンを開けてもうろうてもかまんろうか」と歩行器を付きながら歩く姿もある。ランチョンマットを敷いたり・机を拭いたり・新聞を取りに行ったり・カーテンを巻く事で手を使ったりと細かに歩いている。「昔取った杵柄」である女性としての腕の見せ所、食事の準備は気になること。昼・夕食準備は手伝ってもらっている。(包丁さばき・かわはぎ・ちぎり・根切り・盛りつけ・御飯盛り・お茶入れ)洗濯物を干したり・たたんだり・片付けたり何かとあちこちせんといかん生活。かといって食後の昼寝をしに行きながら「起こしてよ」と。自分のペースで暮らしている。入浴は、毎日・2日に一回・最低3日に一回は入ってもらっている。起床・就寝の様子を見ながら声を掛けている。家族さんは個々に時間をつくってきてくれている。カンファレンスを通して情報の共有をしている。地元のボランティアさんを呼ぶことで感動振りが違う。今後も継続していきたい。ソファに座ったり、居室で寝転がったり・ベンチに腰掛けたり・食卓で机をたたきながら話をしたり・新聞見たり・歌を歌ったり・うたた寝したり・歩きに行ったり・大きな声で訴えたり・笑ったりと暮らしている。本人を取り巻く家族・職員がどう関わるかで、一人一人の表情が変わるし、特に暮らしのほとんどを共にしている自分たちの関わり一つ・声がけ一つで不安なお落ち着いた暮らしができる事。「わたしがおらんといかん」と役立っているそういう気持ちで、張り切って暮らしてもらいたい。と思っている。